緊迫する世界

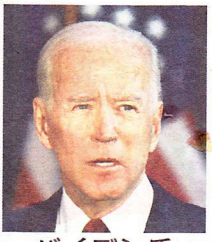
川上高司

▶▶3

ブティジェッジ氏

サンダース氏

ウォーレン氏



バイデン氏

かわかみ・たかし　拓殖大学海外事情研究所所長。1955年、熊本県生まれ。大阪大学博士（国際公共政策）。プレッチャースクール外交政策研究所研究員、世界平和研究所研究員、防衛庁防衛研究所主任研究官、北陸大学法学部教授などを経て現職。著書・共著に『トランプ後の世界秩序』（東洋経済新報社）、『2020年生き残りの戦略―世界はこう動く！』（創成社）など。

民主党候補者選び 4氏接戦、発表遅れ

中国の上海株式相場は、春節（旧正月）明けから大幅に続落している。株式市場の休場期間中に、中国・武漢市で発生した新型肺炎の感染拡大が深刻化する一方、企業の生産再開が延期されるなど、中国経済の減速はほぼ確実となってきている。

米中両国が覇権争いをするなか、中国が新型コロナウイルスで弱体化してくれれば、ドナルド・トランプ米大統領にとっては願ってもないことである。

米軍は年明け早々、イラン革命防衛隊の精鋭「コッズ部隊」のガーセム・ソレイマニ司令官を殺害した。「米国とイランが戦争に突入するのではないか」と世界中を震撼（しんかん）させたが、現在は小康状態にある。

トランプ氏にとっては、大統領選挙で対抗馬から弱腰とみられないためにも、目前に迫っていた弾劾裁判から国民の目をそらす絶好のチャンスだった。事実、トランプ氏の支持率は上昇した。共和党支持者を中心に、オバマ前政権時の対イラン融和政策への不満が蓄積していたこともある。

トランプ氏の読みは見事に当たったのである。

民主党多数の下院で昨年9月、弾劾調査が開始された。トランプ氏が、政敵のジョー・バイデン元副大統領に打撃を与えるため、ウクライナ政府に調査を依頼したことは「権力の乱用」で、弾劾調査への協力拒否も「議会の妨害」だとして、下院は同年12月に弾劾訴追した。

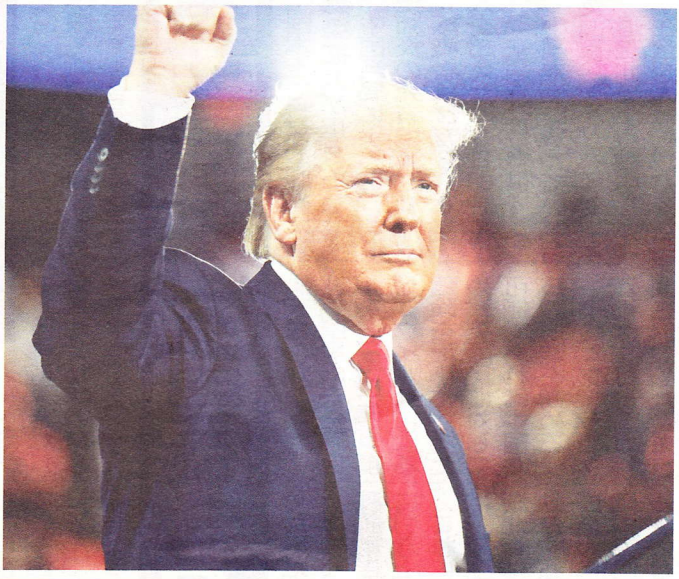
上院での弾劾調査は1月22日に始まったが、与党・共和党が100議席のうち53議席を占めているため、民主党が狙ったジョン・ボルトン前大統領補佐官の証人尋問は実現しなかった。トランプ氏への打撃は抑えられた。弾劾裁判は「トランプ氏の勝利」で終わり、結果として、トランプ氏の下で共和党の団結が強くなる。

こうしたなか、野党・民主党の候補者指名争いの初戦となるアイオワ州党員集会が3日始まった。この後、ニューハンプシャー州予備選（11日）、ネバダ州党員集会（22日）、サウスカロライナ州予備選（29日）と続き、カリフォルニア州などの予備選が集中するスーパーチューズデー（3月3日）を経て、7月の党大会で正式指名される。

主な民主党候補は現時点で、前出のバイデン氏、バーニー・サンダース上院議員、エリザベス・ウォーレン上院議員、ピート・ブティジェッジ元インディアナ州サウスベンド市長の4人が僅差で争っている。

弾劾裁判 生き延び 大統領選に勢いづくトランプ

共和党はトランプ氏の指名が確実視されている。11月3日の投開票に向けて、米大統領選は現職のトランプ氏が有利に物事を進めている。今後とも、トランプ氏は何をするか分からない。米国経済の好況を継続させる限り、トランプ氏に利がある。



トランプ氏は大統領選で追い風を受けている（ロイター）